

Vol. 136

北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ通信

2020/11/27 発行

第136回 ほほえみ 開催

11月18日(水)第136回 ほほえみを開催しました。
今回は4名の方が参加してくれました。

参加に際しましては、感染予防対策のため手指消毒・検温・連絡先の確認(感染予防にのみ使用します)をさせていただいておりますので、ご協力をお願い致します。

がんサロン“ほほえみ” 開催にあたって

- * 皆様ご使用になる前に、机・椅子・ドアノブなど、手が触れる部分を消毒してあります。
- * 30分おきに、換気をさせていただきます。
- * マスクは付けたままでご参加下さい。
- * 石鹸で手を洗った後に、消毒液を付けていただきます。
- * 参加者名簿に名前と電話番号の記載をお願いいたします。

次回のほほえみは、12/16(水)14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局より】

『“仲間がいる”ということ』

(がん体験記)

がんは未知の世界。

「どんな治療が待っているのだろう」

「どんな副作用があるのだろう」

「こんなに不安な思いをしているのは自分だけなのだろうか」と、恐怖感や孤独感を抱きます。そしてそんな不安も周囲には話せない。家族でさえ、理解してもらえないことも多いです。

がん患者が一番求めているのは、きっと、“共感”。同じ経験や同じ気持ちを共有できることは、がんと闘っていく上でとっても大切なことだと、私自身ががんを経験し強く感じたことでした。

誰だって最初は“がん初心者”。そんなとき、がんを経験した人たちの言葉は心にすっと入ってくる。「ああ、私だけじゃないんだ」と、安心できる。

「こんな副作用もあったよ」と言われると、「みんな同じなんだ」と安堵感が生まれる。

「こんなとき、どうしていますか？」という質問にも答えてくれる。

“仲間がいる”ということは、本当に大きな存在。

初対面でも不思議と気軽に話ができるのも、“がん”というつながりがあるからなのかもしれません。

(北海道/女性/乳がん/がん患者本人)